

新型コロナウイルス感染症蔓延初期の大学体育の開講状況
：九州地区国立教員養成大学・学部開講授業の分析結果からの考察

山津 幸司（佐賀大学教育学部）

Course availability of physical education teacher training course in the early stages of the pandemic Coronavirus disease: Considerations from analyses of coursework syllabi in faculties of educations in national universities in Kyushu

Koji Yamatsu (Faculty of Education, Saga University)

(Received June 29th, 2020 ; accepted for publication August 19th, 2020)

要旨

2020年の新型コロナウイルス感染症蔓延の影響は国内外の大学教育にも大きな影響を与えている。大学教育の中でも特に大学体育は、実技系の科目を多く開講しており、2020年度前期の開講にあたっては三密対策と熱中症対策のバランスを保つ必要があり対応の難しさが予想される。教員養成大学・学部で開講されている大学体育は教養体育実技と教員養成の小学校体育、中学・高等学校向けの保健体育科の教員養成のための科目に分けられる。教養体育実技は関連団体である全国大学体育連合の緊急調査で対応状況の実態の一部が把握できているが、教員養成大学・学部における専門体育科目の新型コロナウイルス感染症対策の影響は把握されていない。そこで、本研究の目的は、九州地区の国立教員養成大学・学部が開講している大学体育の新型コロナウイルス感染症対策を調べ、withコロナ期を向かえてどのように対応すべきかを考察することである。その結果、コロナ禍で大学体育は前期開講の遅延や対面授業ができない期間が生じるなど大きな影響を受けているが、様々な工夫で対応していることが示された。しかし、小学校体育実技、水泳実技、教養体育実技はコロナ禍で授業計画の大幅な変更を迫られたにもかかわらず、その情報公開には課題も少なくないことを明らかにした。

Key words: COVID-19, 保健体育科, シラバス分析, 小学校体育実技, 水泳

1. 研究の背景と目的

2020年は二度目の東京オリンピック・パラリンピック開催など日本のスポーツ界にとって華やかな期間を迎えると思われていた。しかしながら、新型コロナウイルス感染症（以下、新型コロナ）の蔓延により、東京オリンピック・パラリンピックは延期を余儀なくされた。それだけにとどまらず、日本国政府の緊急事態宣言により多くの国民が三密回避のための自宅待機という強い要請を受けて、生活スタイルも大きな影響を受けることとなった。

当然ながら、大学教育も新型コロナ蔓延の影響を受けている。国際大学協会（International Association of Universities）が世界111の国と地域の424の高等教育機関を対象に行ったオンライン調査「COVID-19が世界の高等教育へ与える影響に係る調査」の結果（Marinoni et al., 2020）によると、回答機関の3分の2が教室型講義に代わって遠隔教育・学修を行っていると回答していた。特に大きな課題として、特定分野の学修で必要となる実験や実習等の対応の難しさが挙げられていた。以上のことから、日本を含む世界の高等教育機関が新型コロナ蔓延の影響を受けていることがわかる。

大学における体育教育（以下、大学体育）も特に大きな影響を受けている。大学体育は実技・実習等の形態で開催されることが多いため、国際大学協会の調査報告書（Marinoni et al., 2020）も指摘しているように遠隔授業で代替しやすい他教科の授業に比べて影響を受けやすい可能性がある。新型コロナ蔓延の大学体育に対する影響の一部は報告されている。全国大学体育連合は大学の教養教育で開講されている体育実技の授業実施の調査結果（全国大学体育連合, 2020）を報告している。全国大学体育連合の本調査は2020年4月19日締めで行われたが、結果は回答した48

大学のほとんどが体育実技の開始を遅らせる決定をしていること、15校（31.3%）は授業をオンライン教育で始めその後可能になれば対面実技に移行する計画を考えていること、6校（12.5%）は2020年度前学期に体育実技を開講しない、と回答していた。回答締切りの4月19日時点で体育実技を予定通り実施と回答していたのは1校のみであった。以上のことから、大学体育の中でも教養体育実技は新型コロナの影響を大きく受けているが、新型コロナ蔓延が落ち着きをみせた場合はできるだけ早期に対面での実技授業に戻りたいと考えられていることが伺えた。

大学体育には、もう一つの重要な教育機能が存在している。それは、教員養成大学・学部における体育・保健体育科の教員養成に関連する科目である。具体的には、小学校教員免許取得者に対する小学校体育教育力の育成を目的とした科目と中学・高等学校の保健体育科教員免許取得者に対する専門科目群である。小学校教員免許や中学・高等学校の保健体育科教員免許を取得するためには前述の教養体育実技が必修単位となるが、小学校実技科目や水泳などの専門実技科目の単位も取得しなければならない。多くの教員養成大学・学部では、教養体育実技と小学校教員や保健体育科教員養成の体育関連科目を同じ体育を専門とする教員が共通で担っている。そのような状況から、教員養成大学・学部の中での教員養成体育実技科目も教養体育実技と同様に新型コロナ蔓延の影響を受けていると思われるが、教員養成大学・学部がコロナ禍において大学体育実技科目をどのように開講しているのかの実態はわかっていない。

大学体育は多様な科目が開講されており、全科目を調査するのは現実的ではない。例えば、小学校教員免許取得者に対する体育の教員養成科目としては、小学校体育実技や初等体育科教育法などがあげられる。初等体育科教育法は比較的オンラインによる遠隔授業でも対応しやすい。一

方、小学校体育実技は小学校教員の体育実技力の向上が目的となっており、その全部を遠隔授業で行うのは困難と予想される。また、中学校や高等学校の保健体育科教員養成科目も多様である。体育心理学などの理論系科目や保健体育科教育法などの指導法科目は遠隔授業に置き換えやすいが、器械運動や水泳などの体育実技科目の全てを遠隔授業に置き換えるのは難しい。本研究では体育実技科目の中でも水泳実技に着目した。各大学の新型コロナ対策は、陸上・空気中場面を想定して検討されている場合が多い。しかし、水泳実技は比較的塩素濃度の高い水中は安全性が保たれている可能性が高いものの、水泳中の唾や痰の吐出しやシャワーを浴びた後の着替え中の水感染まで想定しなければならない。このことから、新型コロナ対策の情報が比較的少ない水泳実技の実態を把握しておくことは水泳担当教員にとって極めて貴重な情報になりうる。また、教養体育実技についても教員養成大学・学部での現状を把握しておきたいため調査対象とする。

本研究の目的は、九州地区の国立教員養成大学・学部で開講されている小学校体育実技と保健体育科の中でも水泳実技科目、また教養体育実技の開講状況を分析し、新型コロナ蔓延の影響を明らかにする。本研究を通じて新型コロナを含めた感染症の影響を受けやすい体育実技科目を教員養成大学・学部がどのように開講していくべきかを明らかにしたい。今後、withコロナを迎える大学教育の中で、大学体育をどのように開講していくべきかを考察したい。

II. 研究方法

研究対象は、教員養成課程にて小学校教員免許、中学校及び高等学校の保健体育科教員免許のいずれかを卒業要件として取得が義務づけられている九州地区の国立大学8校（福岡教育大学、佐賀

大学、長崎大学、熊本大学、大分大学、宮崎大学、鹿児島大学、琉球大学)における小学校体育実技、水泳実技、教養体育実技のシラバスであった。解析対象のシラバスは2020年6月15日時点で各大学のホームページから入手した。シラバス内に新型コロナ対応の情報がない場合は、各大学の新型コロナ関連のホームページを参照した。分析に用いた全授業の名称や担当者等の情報を巻末(付録)に示した。

Ⅲ. 結果

3.1. 対象大学における2020年度前学期の新型コロナ対応状況(表1)

分析対象となった8大学中、7大学(87.5%)で前期授業の開始日を遅らせていた。前学期の開始を遅らせることなく当初の予定通り開始できたのは長崎大学の1校のみであった。前期授業の開始を遅らせた7校のうち最も早く4月20日に開始したのが佐賀大学と鹿児島大学であり、最も遅く5月11日に開始したのは福岡教育大学と宮崎大学であった。最も早い大学と最も遅い大学で生じた前期開始日の差は21日であった。

全8大学が新型コロナ対策を理由にオンラインによる遠隔授業の実施を原則としていた。2020年度前学期に対面授業を全く実施しないと表明したのは琉球大学の1校のみであった。対面授業不可の期間は、鹿児島大学の5月20日までが最も短く、長崎大学の6月30日までが最も遅く、その日数差は41日であった。

キャンパスへの立入りは、前期中の対面授業を実施しない琉球大学を除く7大学(87.5%)で対面授業の解禁日以降で許可されていた。対面授業開始後の利用教室の消毒等清掃に関する情報は

福岡教育大学と宮崎大学の2大学が公表しており、宮崎大学は原則1日2回、福岡教育大学は毎朝消毒清掃を行うとのことであった。

全8大学が検温や健康・体調チェックなどを義務化していた。通常のマスク着用も全大学で義務化されていたが、体育実技中などの許可された場合のみマスク着用しなくてもよいとの例外をホームページに掲載していたのは宮崎大学と琉球大学の2校であった。それ以外で体育実技に配慮した対面授業の新型コロナ対策の具体的記載がホームページ上で認められた大学は皆無であった。

各大学の注目される対策として以下のような事例があった。福岡教育大学は4年生の教員採用試験対策の自習に限り許可を得て学内教室を使うことができるようにしていた。大分大学は6月末まで東京から大分への帰県者に2週間の登校自粛を求めていた。宮崎大学は前期の授業時間を通常の90分から75分に短縮し、また熱中症対策も兼ねて2m以上の距離を保てる場合はマスク着用の義務を除外するとしていた。琉球大学も体育など着用を要しないと指示を受けた場合はマスク着用を除外するとしていた。以上のように、全大学とも文部科学省の要請を受けてほぼ同様の新型コロナ対策を行っていたが、個別に特別な対応を検討し表明していることが明らかとなった。

3.2. 小学校体育実技の開講状況（表2）

小学校体育実技のシラバスは全8大学で見つけることができた。そのうち、2020年度前学期に開講予定としていたシラバスは6校6科目（75%）であった。前期開講予定の6科目の内、佐賀大学は2020年度のみ新型コロナを理由に未開講に授業計画を変更していた。長崎大学と熊本大学の2校は後期開講であった。2020年度前学期開講中の5科目全てで新型コロナ対応による対面授業不可期間

が含まれていたが、対面授業不可期間に授業をどのように行うのかについての詳細な指示は個別のシラバスの中にも各大学のホームページ上にもみられなかった。また開講中の5科目とも授業開始時期が数週間から1カ月程度遅れていたが、その記載も個別のシラバス内にはなく、各大学ホームページの新型コロナ対策の新着情報等をみる必要があった。開講中の5科目の内、3科目（福岡教育大学の小専体育、鹿児島大学の小学校体育A、琉球大学の体育1組）は同名の科目が複数開講されており、前期や後期に同じ担当や異なる教員が担当しており、他開講が最も多かったのは福岡教育大学の小専体育で他に8科目開講されていた。

3.3. 水泳実技の開講状況（表3）

対象となった8大学のうち、水泳実技のシラバスが見つかったのは6大学6科目であった。うち琉球大学のみ2020年度は未開講に変更する旨がシラバスに記載されていた。佐賀大学と熊本大学は2020年度のシラバスはみつからず、隔年開講（1年おきに開講）の未開講の年度と推測された。福岡教育大学のシラバスは存在したが、担当者や開講学期の情報の記載はなかった。

シラバスが見つかった6科目では、担当者全員が専任教員（100%）であった。シラバス記載のあった5科目中3科目（60%）が集中授業であった。前期開講を表明している5科目（福岡教育大学、長崎大学、大分大学、宮崎大学、鹿児島大学）の全てでシラバス上に実施時期や水泳中の新型コロナ対策の詳細を記載しているものはなかった。水泳実技は、新型コロナの水感染や水中感染を想定しなければならないが、水泳に特化した新型コロナ対策を記載している大学は皆無であった。

3.4. 教養体育実技の開講状況（表4）

全8大学で当該科目のシラバスを見つけることができた。そのうち前期の教養体育実技を後期開講に変更していたのは佐賀大学の1校のみであった。オンラインでの遠隔授業で実施する旨を学生にホームページを通じて告知していたのは鹿児島大学の1校のみであった。その他6大学ではシラバスに具体的な変更等を記載したものはなく、その全てが前年度のコロナ禍前に作成したままであった。佐賀大学と鹿児島大学を除く6大学で、各大学のホームページやオンライン・シラバスを見ても教養体育実技が具体的にどのように展開されているのかを知ることができなかった。

IV. 考察

4.1. 各大学の新型コロナ対策の状況に対する考察

本研究では、九州地区の国立教員養成大学・学部8校のホームページやオンライン・シラバスを調査し、各大学の新型コロナ対策を調べることで、またコロナ禍における大学体育の開講状況の実態調査を行った。その結果、2020年度前期開講科目の新型コロナの影響は次の通りであった。

- ・対象となった8校のうち7校（87.5%）が当初の予定より前期授業の開始が遅れた
- ・原則遠隔授業となり、対面授業開始は早くも5月21日、遅いと7月1日からである
- ・対面授業開始後には検温等の体調・健康チェックは全校義務化で徹底されている
- ・対面授業開始後のマスク着用や教室入室前のアルコール消毒が全校義務化であったのとは対照的に、使用教室の消毒清掃の詳細を公表していたのは2校のみであった
- ・対面授業開始後の対策は教室で行われる講義や実験等を想定して詳細に公表されていた

- ・大学体育実技を想定した新型コロナ対策の具体的記述はほとんどみられなかった
- ・体育等で許可された場合のみマスク着用義務の例外を示していたのは2校のみであった

以上より、新型コロナは九州地区の国立教員養成大学・学部の教育に大きく影響していることが明らかとなった。今回の調査対象は各大学のホームページで他から自由にアクセス可能な情報のみであったが、大学体育に対する新型コロナ対策の情報提供は全大学で十分とはいえない状況であると考えられた。著者の所属する佐賀大学でも公的機関の新型コロナ対応指針（日本スポーツ協会，2020a; 2020b）を参考にして専門の保健体育科目の対面授業に対する詳細なガイドラインを作成済みであるものの、それが大学のホームページやオンライン・シラバスに掲載されるには至っていない。大学体育の対面授業を開始した大学では、授業担当などより詳細な新型コロナ対策が履修学生に連絡されていると思われるため、各校の大学体育から新型コロナの陽性者が出ないことを強く望む。しかしながら、新型コロナの蔓延という大学のみならず国家レベルの大問題が生じているにもかかわらず、オンライン・シラバスの授業計画の変更に関する記載が適切になされていない現状は見逃すべきではない。新型コロナの蔓延などで授業計画が大きく変更することは仕方ないが、どのように変更され、どのように授業が開講され、評価はどう行われるかなどは広く公表されるべきであろう。

4.2. 小学校体育実技の開講状況に対する考察

小学校体育実技の前期開講は8校中6校のみであった。その中で佐賀大学は2020年度のみ未開講としていた。新型コロナの影響がどこまで拡大するかが見渡せない中、小学校体育実技には複数の種

目や水泳等も含まれる場合があるため、担当教員は現時点でも大変な苦労中だと推測される。佐賀大学を除く前期開講の5校のうち3校では、同名称の科目を3から8科目別に開講しているため、担当教員はその調整等でも苦心されているはずである。残念ながら、前期開講中と思われる5校すべてのシラバスにおいて、現時点で遠隔授業を続けているのか、対面授業に移行しているのかなどを公表できている大学は皆無であった。履修学生に適切な情報が伝わっていればよいとも考えられるが、少なくとも同大学の他の専任教員や教務などの事務、次年度以降に履修予定の学生などには同様の状況が生じた場合に授業形態がどのように変更される可能性があるのかを示しておくことは必要である。今回の教訓を活かし、大きなイベントで授業計画を変更する場合にはオンライン・シラバス等を適切に修正することをルーティンにすべきであろう。

4.3. 水泳実技の開講状況に対する考察

2020年度前期のシラバスが見つかったのは8校中6大学の6科目であった。そのうち、琉球大学の遠藤洋志教授は未開講に変更した旨をオンライン・シラバスに掲載していた。今回の調査でシラバスに新型コロナ対応による授業計画の変更を記載していた唯一の科目であった。水泳実技は集中的に開講されることが多いため、事前に公表できた意義は大きい。また、同様の状況では開講されない可能性があることを多数に示すことができたのも今後の教員間、教員 - 事務間の教務的なコンセンサスの形成にも役立ったと思う。以上のことから、必ずしも大学体育に限定されることではないが、授業計画の変更が生じた際には当該学生のみに伝えるだけでなく、オンライン・シラバスに必ず記載するべきと訴えていきたい。

また、水泳実技に特化した新型コロナ対応の記載が全大学で公表されていなかった。水泳は水感染や水中を想定しなければならず、通常行われている新型コロナの三密対策では不十分である可能性もある。スポーツ庁（2020）や日本水泳連盟（2020）が公表している水泳実施の際のガイドラインも、他の競技連盟のガイドラインほど明確な指示が出されているとはいえないものである。現時点では、スポーツ庁や日本水泳連盟のガイドラインを参考に試行錯誤しながら実施すべきかもしれないが、可能なら日本教育大学協会や日本体育学会などの専門家会議が指針を出していただければと期待する。個別の水泳担当教員の不安を払拭するのに役立つと思われるため、私も水泳担当教員として積極的に関与していきたい。

4.4. 教養体育実技の開講状況に対する考察

8大学の全てでシラバスを見つけることができたが、オンラインによる遠隔教育で実施することを公表していたのは鹿児島大学のみであった。教養体育実技は入学したばかりの新入生を対象とすることが多いが、過年度生の履修もあり得ることなどから、鹿児島大学が遠隔教育への変更を早期に公表されていた点は評価できる。一方で、前期開講中の7校全てで、2020年6月末時点で遠隔授業を続けているのか、対面授業に移行したのかなどの情報を公表できていなかった。前述のように、教養体育実技は教員免許取得者にとって重要な必修科目である。教養体育実技も教員養成大学・学部にとって重要な科目だからこそ、授業計画の変更に伴う情報はオンライン・シラバスで適切に公表されるべきである。残念ながら、教養体育実技に関して望ましい教務上の情報提供ができていない大学は皆無であった。

4.5. 本研究の限界と今後の課題

本研究では各大学のホームページ上やオンライン・シラバスの公表された情報にアクセスし得られたデータに基づき分析および考察を行ってきた。多くの大学では、パスワード管理され在籍している教員・学生のみしかアクセスできない仕組みも導入されていた。本研究の限界は、他から自由にアクセスできる範囲で得られた情報・データのみを用いている点である。本研究では各大学の大学体育の授業計画の変更の際しての情報提供が不十分と言及したが、実際には個人認証を要するホームページの情報や個人に直接配信されたe-mailの情報も踏まえて結論づけるのが理想だからである。

限定された情報のみで分析を行ってきたが、本研究の独自性として、新型コロナという未曾有の大災害に対し、大学、担当教員や事務共に教務的に準備ができていない状況を速報的に明らかにできたことを挙げたい。今後の課題として、この教訓を活かし、新型コロナ相当の大災害の中でも各大学のホームページやオンライン・シラバスを活用して授業計画の変更を適切に公表できる体制を整えるべきである。新型コロナだけでなく、九州地区では台風、大雨、地震、火山など対応すべきことは少なくないことを忘れてはならない。

V. 結論

本研究では、新型コロナの影響を広く受ける我が国において、九州地区国立教員養成大学・学部における大学体育の開講状況がどのような実態にあるのかを調査した。その結果、コロナ禍で大学

教育、大学体育は前期開講の遅延や対面授業ができない期間が生じるなど大きな影響を受けているが、様々な工夫で対応していることが示された。しかし、小学校体育実技、水泳実技、教養体育実技はコロナ禍で授業計画の大幅な変更を迫られたにもかかわらず、その情報公開には課題も少ないことを明らかにした。各大学が不断の努力で克服すべきものではあるが、例えば水泳実技実施の際のガイドラインなどでは文部科学省や日本教育大学協会などが主導し様々な関係者が協力して行う方がより望ましい対策がとれると思われる。大学体育に関わる教員の一人として尽力していきたい。

VI. 引用文献

Giorgio Marinoni, Hilligje van't Land, Trine Jensen. (2020) The impact of COVID-19 on higher education around the world: IAU Global Survey Report. https://www.iau-aiu.net/IMG/pdf/iau_covid19_and_the_survey_report_final_may_2020.pdf [2020年6月19日アクセス]

日本水泳連盟 (2020), 水泳活動における COVID-19 対策の留意点について, [https://www.swim.or.jp/upfiles/1592301892-水泳活動での COVID-19 対策の留意点0616.pdf](https://www.swim.or.jp/upfiles/1592301892-水泳活動でのCOVID-19対策の留意点0616.pdf) [2020年6月19日アクセス]

日本スポーツ協会 (2020a), スポーツイベントの再開に向けた感染拡大予防ガイドライン, <https://www.japan-sports.or.jp/Portals/0/jspo/guideline2.pdf> [2020年6月19日アクセス]

日本スポーツ協会 (2020b), スポーツ活動再開時の新型コロナウイルス感染症対策と熱中症予防について, <https://www.japan->

sports.or.jp/Portals/0/data/supoken/doc/heatstroke/covid/jspo_heatstroke_covid20200521.pdf [2020年

6月19日アクセス]

スポーツ庁 (2020), 今年度における学校の水泳授業の取扱いについて,

https://www.mext.go.jp/sports/content/20200522-spt_sseisaku01-000007434-1.pdf [2020年6月19日

アクセス]

全国大学体育連合 (2020), 新型コロナウイルス感染症拡大に伴う授業実施に関する緊急アンケート

ト, http://daitairen.or.jp/2013/wp-content/uploads/corona_question_20200419.pdf [2020年6月19日

アクセス]

表1. 各大学の2020年度前期の新型コロナ対策

NO.	大学名	最新更新日	前期開始	コロナ対応 (対面不可期間)	キャンパス 立入	教室の消毒	マスク 着用例外	検温等の 体調チェック
1	福岡教育大学	6月2日	5月11日	6月14日まで	解禁	毎朝	(記載なし)	義務
2	佐賀大学	6月3日	4月20日	6月15日まで	解禁	(記載なし)	(記載なし)	義務
3	長崎大学	6月12日	4月8日	6月30日まで	解禁予定	(記載なし)	(記載なし)	義務
4	熊本大学	6月19日	5月7日	5月31日まで	解禁	(記載なし)	(記載なし)	義務
5	大分大学	6月18日	4月22日	5月31日まで	解禁	(記載なし)	(記載なし)	義務
6	宮崎大学	6月19日	5月11日	(特定期日の記載無)	解禁	使用した教室 原則1日2回	あり	義務
7	鹿児島大学	6月19日	4月20日	5月20日まで	解禁	(記載なし)	(記載なし)	義務
8	琉球大学	6月15日	5月7日	前学期すべて	禁止	(記載なし)	あり	義務

表2. 小学校体育実技の2020年度前学期の開講状況

NO.	大学名	教科名	担当者名	専任or非常勤	オムニ バス	他開講#	開講学期	開講学年	コロナ対応 (対面不可期間)
1	福岡教育大学	小専体育	清水知恵	専任	なし	あり(8)	前期	2年	6月15日まで
2	佐賀大学	小学体育I 【2020年度未開講】	山津幸司ほか	専任、非常勤	あり	なし	前期	1年	6月15日まで
3	長崎大学	小学校体育科	河合史菜	専任	なし	なし	後期	2年	6月30日まで
4	熊本大学	体育科教育A組	坂下玲子ほか	専任	あり	あり(2)	後期	2年	5月31日まで
5	大分大学	体育(小)	谷口勇一ほか	専任	あり	なし	前期	1年	5月31日まで
6	宮崎大学	体育	松永智ほか	専任	あり	なし	前期	2年	(特定期日の記載 無)
7	鹿児島大学	小学校体育A	森井亮和	専任	なし	あり(3)	前期	3年	5月20日まで
8	琉球大学	体育1組	増澤拓也	専任	なし	あり(4)	前期	(未記入)	前学期すべて

「他開講」とは同じ名称の科目が他に何科目開講されているかを示す。

表3. 水泳実技の2020年度前学期の開講状況

NO.	大学名	教科名	担当者名	専任or非常勤	開講学期	開講学年	コロナ対応 (対面不可期間)
1	福岡教育大学	水泳	(記載無)	(記載無)	(記載無)	(記載無)	6月15日まで
2	佐賀大学	【2020年度未開講の年】					6月15日まで
3	長崎大学	水泳	高橋浩二	専任	前期集中	2年	6月30日まで
4	熊本大学	【2020年度未開講の年】					5月31日まで
5	大分大学	体育実技Ⅲ(水泳)	谷口勇一	専任	(記載無)	2年	5月31日まで
6	宮崎大学	体育実技ⅠⅠ(水泳を含む。)	塩瀬圭佑	専任	前期集中	1年	(特定期日の記載無)
7	鹿児島大学	水泳Ⅰ	宮脇千恵美	専任	前期集中	3年	5月20日まで
8	琉球大学	水泳【未開講に変更】	遠藤洋志	専任	前期	(記載無)	前学期すべて

表4. 教養体育実技の2020年度前学期の開講状況

NO.	大学名	教科名	担当者名	専任or非常勤	他開講 [#]	開講学期	開講学年	コロナ対応 (対面不可期間)
1	福岡教育大学	健康・スポーツ科学実習Ⅰ	清水知恵	専任	あり(12)	前期	1年	6月15日まで
2	佐賀大学	体育実技Ⅰ、Ⅱ 【2020年度後期開講に変更】	山津幸司	専任	あり(10)	前期	1年	6月15日まで
3	長崎大学	スポーツ演習	高橋浩二	専任	あり(11)	前期	1年	6月30日まで
4	熊本大学	体育・スポーツ科学a	坂下玲子	専任	あり(10)	前期	1年	5月31日まで
5	大分大学	生涯スポーツⅠ	岡内優明	専任	あり(6)	前期	2年	5月31日まで
6	宮崎大学	スポーツ科学IE(1)	宇土昌志	専任	あり(10)	前期	1年	(特定期日の記載無)
7	鹿児島大学	体育・健康科学実習	(不明)	(不明)	(不明)	前期	(不明)	5月20日まで (ホームページに遠隔対応の記載有)
8	琉球大学	運動・スポーツ科学演習	増澤拓也	専任	あり(43)	前期	(不明)	前学期すべて

付録

本研究にて分析対象としたシラバスの引用元 URL (2020年6月15日現在アクセス可能であることを確認済み)、記載内容は開講大学、開講科目名、担当者名、参照 URL の順に記載

(小学校体育実技科目)

1. 福岡教育大学, 小専体育, 清水知恵 http://syllabus.fukuoka-edu.ac.jp/ext_syllabus/syllabusReferenceContentsInit.do;jsessionid=u9hy9ifv-YGM8HDFP7sySHuP.kmap2?subjectId=012600062048&formatCode=1&rowIndex=6&jikanwariSchoolYear=2020
2. 佐賀大学, 小学体育 I, 山津幸司ほか https://lc2.sc.admin.saga-u.ac.jp/syllabus2/syllabusListReferenceContentsInit.do;jsessionid=LCT3U-C0WJ3IHtkj+6vyCQal.kmap2?subjectId=026700236634&formatCode=1&rowIndex=40&jikanwariSchoolYear=
3. 長崎大学, 小学校体育科, 河合史菜 https://nuweb.nagasaki-u.ac.jp/campusweb/campussquare.do?_flowExecutionKey=_c9DE4DBCC-4FD5-128A-AE68-389E17A19ACA_k2127A567-37A6-80B0-88F3-62F12B62DEF4
4. 熊本大学, 体育科教育 A 組, 坂下玲子ほか http://syllabus.kumamoto-u.ac.jp/pub/syllabus.html?locale=ja&sylocale=&nendo=2020&jikanwari_shozokucd=07&jikanwaricd=01300&nendoS=2020&jikanwari_shozokucdS=07&kaikoS=&kamokuS=&jikanwaricdS=&tanto_kyoinS=&keywordS=体育&jitumuS=&limitS=100
5. 大分大学, 体育(小), 谷口勇一ほか http://www.ed.oita-u.ac.jp/syllabus/syllabus_educ/files/10.体育(小).pdf
6. 宮崎大学, 体育, 松永智ほか https://carte.eden.miyazaki-u.ac.jp/files/syllabus/2020/2020_DA171.pdf
7. 鹿児島大学, 小学校体育 A, 森井亮和 https://sb07.kuas.kagoshima-u.ac.jp/ac_syllabus/free_time_table.php?cur_syz=0700&MY_F=kyouiku
8. 琉球大学, 体育 1 組, 増澤拓也 https://tiglon.jim.u-ryukyu.ac.jp/portal/Public/Syllabus/DetailMain.aspx?lct_year=2020&lct_cd=306238011&je_cd=1

(水泳実技科目)

1. 福岡教育大学, 水泳, 担当未記入 http://syllabus.fukuoka-edu.ac.jp/ext_syllabus/syllabusReferenceContentsInit.do;jsessionid=r2VXAHfJPSBjGu-zQid1cIPM.kmap3?subjectId=012600063306&formatCode=1&rowIndex=39&jikanwariSchoolYear=2020
2. 佐賀大学, 【2020年度は隔年開講で未開講】
3. 長崎大学, 水泳, 高橋浩二 https://nuweb.nagasaki-u.ac.jp/campusweb/campussquare.do?_flowExecutionKey=_c0D9DD524-DE85-5397-0C7F-F6E390F67E6C_k24F976AD-9339-B47D-F4E4-181AC0154270
4. 熊本大学, 【2020年度は隔年開講で未開講】

5. 大分大学, 体育実技Ⅲ (水泳), 谷口勇一 http://www.ed.oita-u.ac.jp/syllabus/syllabus_educ/files/07.体育実技Ⅲ(2以降).pdf
6. 宮崎大学, 体育実技Ⅱ (水泳を含む。) 塩瀬圭佑 https://carte.eden.miyazaki-u.ac.jp/files/syllabus/2020/2020_DJ211.pdf
7. 鹿児島大学, 水泳Ⅰ, 宮脇千恵美 https://sb07.kuas.kagoshima-u.ac.jp/ac_syllabus/free_time_table.php?cur_syz=0700&MY_F=kyouiku
8. 琉球大学, 水泳【未開講に変更】, 遠藤洋志 https://tiglon.jim.u-ryukyu.ac.jp/portal/Public/Syllabus/SyllabusSearchStart.aspx?lct_year=2020&lct_cd=304078001&je_cd=1

(教養体育実技科目)

1. 福岡教育大学, 健康・スポーツ科学実習Ⅰ, 清水知恵 http://syllabus.fukuoka-edu.ac.jp/ext_syllabus/syllabusReferenceContentsInit.do;jsessionid=-EMOqzm+rPb-eHtyLRCDVioc.kmap1?subjectId=012600062859&formatCode=1&rowIndex=5&jikanwariSchoolYear=2020
2. 佐賀大学, 体育実技Ⅰ、Ⅱ【2020年度後期開講に変更】, 山津幸司 http://syllabus.sc.admin.saga-u.ac.jp/ext_syllabus/syllabusReferenceContentsInit.do;jsessionid=rg8gSSHKCS03FD-q1x+6jcbK.kmap1?subjectId=026700234570&formatCode=1&rowIndex=24&jikanwariSchoolYear=2020
3. 長崎大学, スポーツ演習(サッカー), 高橋浩二 https://nuweb.nagasaki-u.ac.jp/campusweb/campussquare.do?flowExecutionKey=c0D9DD524-DE85-5397-0C7F-F6E390F67E6C_kEC7C1F79-C4A0-3E62-AE4E-3948B0B08315
4. 熊本大学, 体育・スポーツ科学 a, 坂下玲子 http://syllabus.kumamoto-u.ac.jp/pub/syllabus.html?locale=ja&sylocale=&nendo=2020&jikanwari_shozokued=58&jikanwaried=A0531&nendoS=2020&jikanwari_shozokuedS=58&kaikoS=&kamokuS=&jikanwariedS=&tanto_kyoinS=&keywordS=スポーツ&jitumuS=&limitS=100
5. 大分大学, 生涯スポーツⅡ, 谷口勇一 http://www.kyomu.oita-u.ac.jp/kyomu/kyoyo_syllabus/01.pdf
6. 宮崎大学, スポーツ科学ⅠE(1), 宇土昌志 https://carte.eden.miyazaki-u.ac.jp/files/syllabus/2020/2020_kk301.pdf
7. 鹿児島大学, 体育・健康科学実習, 担当者不明 https://www.kagoshima-u.ac.jp/education/01.pdf
8. 琉球大学, 運動・スポーツ科学演習(バドミントン), 増澤拓也 https://tiglon.jim.u-ryukyu.ac.jp/portal/Public/Syllabus/DetailMain.aspx?lct_year=2020&lct_cd=101447021&je_cd=1